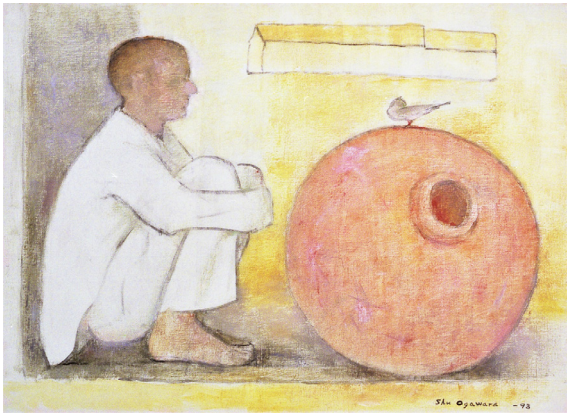


感動一点の場

『無題』

1993 年 小川原 脩 画



2024 年友の会カレンダー「小川原脩 遙かなるイマージュ」の 6 月はこの作品でした。1 カ月毎日ご覧いただいて、ご記憶の方もいらっしゃるかもしれません。

とある画家の方が、「この作品を見るといつも『小鳥に説教をするアッシジのフランチェスコ』を思い出す」とお話を聞かせてくれました。聖フランチェスコ（1182 － 1226）は、豪商の家に生まれながら財産を捨て、イエス・キリストの生涯に倣うべく野に出て信仰に生きた聖人。その逸話は、彼が野原で地面にいた鳥たちに説教を始めると、木に止まっていた鳥たちも次々に舞い降りてきて聞き入ったというもの。西洋絵画の父と呼ばれるジョットもこの逸話を描いています。

では、この作品に目を向けてみましょう。壁に沿って路地にしゃがむ少年は、インドの伝統的な白いクルタ・パジャマに身を包んでいます。向かい合う小鳥は、大きな素焼きの壺つぼに止まり、堂々と胸を張って人の目線と高さを合わせ、まるで対話をしているようです。両者の背景には横に細長い家が建っていて、ここが街角であることを示しています。小川原脩が晩年、インドを旅して目にしたモチーフを自由に組み合わせ描いているのですが、かえって小鳥が少年を諭しているようにも見えてくるので不思議です。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）

倶知安駅の開業

倶知安駅の開業は 1904（明治 37）年 10 月 15 日。前々年から工事が完成した区間ごとに営業を始めていた小樽―函館間の鉄道は、この日、小沢―倶知安―熱帯間の営業開始により全線開通となり、それを祝い沿線の駅では小樽からの一番列車が到着すると祝賀行事が催されました。中でも、初めて汽車が来る倶知安の歓迎模様は「最も盛況だった」と当時の小樽新聞は次のように伝えています。

『羊蹄山の麓、新京都とも呼ばれる倶知安に到着すると花火が高々と打ち上がった。駅前に整列した小学生の団が万歳の声を上げると、村内から集まった数千人の群衆もこれに呼応して素晴らしく壮観であった。家や店の軒先には国旗と球燈（丸く小さい提灯）が飾られ、大アーチが設けられた駅前では、相撲や餅まき、踊りなどの披露があり、歓迎の模様は最も盛況を呈していた。倶知安では駅前に物産陳列場を新築し、農産物や工芸品など約 500 点が展示販売され、初日 3,000 人、2 日目 2,000 人、3 日目 800 人の入場者があった。』

歓喜に包まれて開業した倶知安駅は、やがて羊蹄山麓の交通の要衝となり、町の発展とともに歴史を刻み、今年 120 周年を迎えました。

文：紺谷 貴之（倶知安風土館 学芸補助員）



最初の倶知安駅

ふるさと探訪

498 回

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

開館 25 周年記念第 66 回麓彩会展

1958 年、小川原脩をはじめとする 8 人の発起人により創設された「麓彩会」。倶知安にゆかりのある作家たちの近作を通じて、多彩な美術を紹介します。

会期：10 月 5 日(土)～令和 7 年 2 月 2 日(日)

■第 2 展示室

開館 25 周年記念麓彩会と仲間たち展

小川原脩とともに麓彩会を創設、活動した作家たちの当館所蔵作品を紹介します。

会期：10 月 5 日(土)～12 月 1 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■アーティスト・トーク

麓彩会展オープニングセレモニー&アーティストトーク

第 66 回麓彩会展のオープニングセレモニーの後、展覧会場にて出品作家の皆さんに作品について伺います。

日時：10 月 5 日(土) 10 時～10 時 45 分

会場：第 1 展示室（無料）

■ミュージアム・コンサート

友の会アフタヌーン・コンサート

ピアノとバイオリンによるユニット「ブリランテ」が奏でるクラシックをお楽しみください。

日時：10 月 26 日(土) 14 時～15 時

会場：ロビー（要観覧料）※予約不要

出演：浅野美幸さん（ピアノ）、今橋文代さん（バイオリン）

倶知安風土館のお知らせ

■寺子屋ミュージアム

「昔のオヤツって、なに？」

昔、子どもたちが食べていたオヤツを、当時の道具を使い実際に作ってみます。今回はせんべい焼きと、カルメ焼きです。

日時：10 月 14 日（月・祝）13 時 30 分～16 時

集合：倶知安風土館駐車場 定員：10 名※要予約

講師：今井真司（風土館学芸補助） 参加費：100 円（材料費）

申込：10 月 10 日(木)までに電話申込み（☎ 22 － 6631）

美術館・風土館 コラボイベントのお知らせ

■共同ワークショップ

「秋の葉っぱでリースを作ろう」

紅葉が美しい美術館と風土館の前庭を散策し、取ってきた葉っぱを観察して楽しい工作をします。

日時：10 月 12 日(土) 10 時～12 時（雨天決行） 会場：倶知安風土館体験学習室（無料）

講師：小田桐亮（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ） 定員：15 名※小学 2 年生以下は保護者同伴

申込：美術館に電話申込（☎ 21 － 4141）

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500 円（400 円）

高校生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

10 月の休館日 毎週火曜日、展示替えのため

美術館のみ 2 日(水)～4 日(金)

日本の洋画

暦のとおり休めることとなった 7 月の 3 連休、今年はまだ遠出をしていないことにはたと気付きます。

まずは日帰りの範囲で、行ったことがない美術館、そして興味深い展示で・・・といった条件から、道立旭川美術館をチョイス。片道 4 時間、朝からバタバタしつつドライブへ。

この日は「日本の洋画 百五十年の輝き」展が開催中。日本の美術史において、西洋絵画の手法である油彩が入ってきたのが幕末から明治にかけて。その精緻で写実的、多様な表現を、当時の日本の画家たちが、いかに受け入れ、学び、昇華させていったのか。

展示では高橋由一の「鮭図」に始まり、「麗子像」で知られる岸田劉生の特集コーナーや、本人の生きざまが垣間見られる鴨居玲の自画像「勲章」、非常に細密で柔らかく、美しく裸婦を描いた森本草介の「微睡の時」など、しばし離れがたくなるほどの名作の数々を観ることができました。

館長 福原 秀和